

# 輪島

# は能登の観光の拠点です

## ---風評被害が一番の心配---

### 地震の心配も

能登半島地震では、大泊から剣地地域の海岸は40~50cm隆起。地震で「遮水シート」が破れない保証はあるのでしょうか?!

「遮水シートは62年もつ」と市長は答弁していますが、それは地震がないことを前提にしているのではないのでしょうか。

“想定外”に遮水シートが破れたら廃液は流れっぱなしになり、地下水も海も汚染します。

### ○ 48年間、焼却・埋め立てを続ける

産廃処分場が輪島市のシンボルになりかねません。

### ○ 345万m<sup>3</sup>の産廃埋め立ては700万m<sup>3</sup>以上の産廃搬入(焼却等で分量が半分に減ったと仮定して)

大型の産廃車140万台分、毎月平均2500台が48年間にわたって、「のと里山海道」「能越道」と穴水-門前間の県道、志賀町の国道249号などに集中することになります。

### ○ 最近の異常な豪雨で浸出水が未処理のまま流されたら、漁業・水産物への「風評被害」は避けられない。輪島と能登全体の観光に大打撃

### ○ 輪島市が“産廃処分場の建設適地”となってしまう危険性

「のと里山海道」の無料化につづいて、能越道や農免道路の整備で、輪島に向かう道路整備が進む中で、「地理的、地形的、地質的等の条件に加え、社会的、政治的条件からも、輪島市が産廃処分場適地とみなされ、つぎつぎと建設計画がもちあがる危険性を否定できない」(2008年1月16日付「輪島市産業廃棄物最終処分場建設検討委員会」の「計画に関する委員長所見」)との指摘は重たいものがあります。さらに「委員長所見」では、「また『過疎地対策は迷惑施設の誘致で』という風潮を助長することも大いに懸念される」と指摘しています。

そもそも2008年の「輪島市産業廃棄物最終処分場建設検討委員会」の答申は、「受け入れるべきでないと判断する」というものでした。

「最終処分場はどこかにつくらなければならない」・・・というご意見はごもっともですが・・・。

#### ●そもそも廃棄物は“発生地処理”が原則です。

・・・羽咋市・郡の「建設業協会」では、建設業者の建築廃材などの処分場を独自に作って運営しています。

・・・「どこかにつくらなければならない」からと言って、能登半島に巨大な産廃処分場をつくって、半世紀にもわたって全国の産業廃棄物を受け入れるというのはスジの通らないことです。

### 「60年間管理する」

本当に可能か?---疑問です。

- ◆ 60年後を誰が予測できるのか?
- ◆ 60年先までのことを、任期4年の知事や市長や議会で安易に決めていいのか---この点が問われます。

### 「公共下水道につなぐ」

---安心・安全と関係ありません。

逆に、民間業者の管理責任が「輪島市の管理責任」に転嫁されかねません。



(写真は、インターネットから転載しました)